

II. 事業総括

改訂委員会 委員長 小川 朝生
国立がん研究センター 東病院 精神腫瘍科 科長

A. 目的

ピア・サポートは、がんを含めた慢性疾患に対する基本的な心理社会的な支援の一形式である。

わが国のがん対策においては、2011-2013年度に、公益財団法人日本対がん協会が厚生労働省委託事業「がん総合相談に携わる者に対する研修プログラム策定事業」を受託し、ピア・サポートに必要な基本的なスキルを身につけるための研修プログラムを策定し、説明会の開催やホームページ等による周知を進めた。

しかし、2016年に総務省が2015年度のピア・サポート研修の実施状況ならびに活動状況に関して17都道府県、51がん診療連携拠点病院を対象に調査をした結果、都道府県等においてピア・サポート研修が実施されていない状況や、拠点病院における相談支援や患者サロンへのピア・サポーターの受け入れが十分に進んでいない状況が確認された（平成28年9月総務省「がん対策に関する行政評価・監視結果報告書」）。

総務省によるがん対策の評価を受けて、がん対策推進基本計画（第3期）では、ピア・サポートについて、国が作成した研修プログラムの活用状況に係る実態調査を行い、ピア・サポートが普及しない原因を分析し、研修内容の見直しやピア・サポートの普及を図ることが盛り込まれた。

続けて、第4期がん対策推進基本計画においては、ピア・サポーターのより一層の活用や、がん診療連携拠点病院等（以下、拠点病院等）とピア・サポーターとの連携体制の構築が掲げられている。

本委託事業では、実施要綱に従い、

- (1) 医療・福祉関係者などの有識者やがん患者団体等の当事者による「研修プログラム改訂委員会」を設置し、前年度改訂したプログラムを使用した研修を実施する。また、地域ごとにニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続の可

能性等の検証を行うとともに、必要に応じてプログラム等の改善を行う

- (2) 委員会において検討された内容に基づく教材等を活用し、地域統括相談支援センターや患者サロンの開催等に協力するピア・サポーター等に対して研修等を実施する。また、都道府県がピア・サポーターの育成を目的とした研修を実施する際、都道府県に対する相談支援を実施する
- (3) 情報提供、研修の周知や参加申し込み、必要資料の提供等を行うホームページを運用することを検討した。

B. 体制と経過

「改訂委員会」を設置し、その下に「ピア養成研修ワーキンググループ」「短期サポートグループワーキンググループ」を組織し、課題整理を行ったのち、以下の4点を検討・実施した。

1. ピア・サポーター養成研修会の開催支援
2. 各都道府県におけるニーズの把握ならびにピア・サポートに関する取組みの実態把握
3. がん診療連携拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施
4. 情報提供等を行うホームページの運用

1. ピア・サポーター養成研修会の開催支援

本事業で改訂したピア・サポーター養成研修プログラムに基づく研修会を各都道府県で広げていくことを目標としている。通常形式の開催支援に加え、地域の実情にあわせ柔軟に開催するためにオンライン形式を取り入れた短縮版も提案し、動画等の資料を活用した養成研修会やフォローアップ研修会等を実施した。

- (1) 自治体がピア・サポーターの質の担保を目的に、フォローアップ研修会を開催するためのマニュアルを開発した。
- (2) ピア・サポーター養成スライドを改訂した。
- (3) 各地の実情に応じたピア・サポーター養成、ならびにフォローアップ研修の開催を支援した。
- (4) 全国の都道府県にピア・サポート養成に関わるニーズを調査し、要望のあった都道府県に対し、当WGからプログラムの提案、開催支援を行った。

都道府県でのピア・サポーター養成研修開催支援：15都道府県からの協力要請があり、プログラムの提供、開催支援を行った（p.12 表3）。

これまでに養成されたピア・サポーターへのフォローアップ研修開催支援に4県から協力要請があり、各地の実情に応じたプログラムの提供、開催支援を行った（p.15 表4）。

2. 各都道府県におけるニーズ把握ならびにピア・サポートに関する取り組みの実態把握

- (1) 各都道府県におけるニーズ把握・現状評価及び地域での取り組みの持続性の可能性等の検討

各地域で研修を実施しやすい仕組みの構築を目指し、ピア・サポーター等の研修について都道府県の取り組みに対する意見交換や講師の紹介、研修プログラム並びに研修テキスト等の提供を行った。2024年5月に厚生労働省より各都道府県担当部署に対して案内を送付した後に、希望した都道府県と個別に支援内容を調整した。

今年度は9県に対して都道府県担当者と改訂委員会委員等が、各県の取組みの現状ならびに課題に関する意見交換を対面またはオンラインにて行った（p.8 表1）。また、行政と拠点病院等の医療従事者を対象としたピア・サポートに関する研修会の開催を1府に対して支援した。（p.8 表2）。

研修テキスト並びにDVDを、16都道府県、地域統括支援センター8箇所に対して送付した。

- (2) 各都道府県におけるピア・サポートに関するニーズ把握・各都道府県がん対策基本計画での検討状況の把握

各都道府県におけるピア・サポート研修や行政と医療機関の協力体制に関する現状を把握し、今後のピア・サポートの支援の拡充に活かすことを目的に、厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課の協力を得て、各都道府県の担当部署に、現状調査を実施し、46都道府県より回答を得た。今回は、第4期がん対策推進基本計画に基づく、各都道府県のがん対策推進計画の策定直後であることから、各都道府県でのがん対策推進計画でピア・サポートに関する目標設定やロジックモデルの検討状況、都道府県がん診療連携協議会等でのピア・サポートに関する検討状況の把握を目指した。

その結果、都道府県がん診療連携協議会等で定期的にピア・サポートに関する検討が行われているのは、27都道府県（57.4%）であった。またピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した37都道府県のうち、養成研修の内容を拠点病院等とこの1年間で検討する機会があったのは14都道府県（37.8%）であった。

がん診療連携拠点病院内の患者サロン同士の連携や情報共有が定期的に行われているのは25都道府県（53.2%）であった。

ピア・サポーター養成研修会が定期的に開催されているのは31都道府県（66.0%）であった。

ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した37都道府県のうち、養成したピア・サポーターを対象に登録制度を取っているのは28都道府県（75.7%）、ピア・サポーター活動の調整を行っているのは23都道府県（62.2%）であった。登録されたピア・サポーターのマネジメントを担う部署等が決まっているのは26都道府県（70.3%）であった。

フォローアップ研修を定期的に開催しているのは、ピア・サポーター養成研修会を開催したことがあると回答した37都道府県のうち29都道府県（78.4%）、活動する都度振り返りを行っている体制を整備しているのは25都道府県（67.6%）であった。

ピア・サポートの養成・活用には、自治体と医療機関

II. 事業総括

との密な連携のもとに、目標の設定と事業の遂行が求められる。しかし、都道府県がん診療連携協議会のもとに、ピア・サポートの養成や継続研修、活用について定期的に検討する場をもつ都道府県は、全ての都道府県には行き渡っていなかった。今後、その必要性を明確にし、その地域のニーズに合った実施体制を組むことが重要である。あわせて、ピア・サポートの活動を推進するために、研修プログラムに沿った研修を実施すると共に、その後の継続的な研修を行う教育体制や研修修了者を活用するマネジメント体制についても構築する必要がある。

3. 拠点病院等に向けた患者サロンのなかでサポートグループを開催するための研修プログラムの実施

(1) がんサポートグループ企画・運営者のための研修会の実施

本事業では、医療機関ごとに、それぞれのリソースを踏まえ、今後ピア・サポーターが安心して活動に携わることをできることを目的に、がんの相談支援に携わる医療従事者を対象とした「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」プログラムを開発してきた。

がん患者に対する心理社会的支援の機会を整備するためには、この研修会の継続した開催が求められる。そこで本年度は、2回の研修会を開催し、より多数の研修修了者を増やすことを目標に活動した。

本年度は、2024年10月16日（金沢とオンライン）と2025年2月11日（東京とオンライン）の2回開催し、それぞれ90名のがん相談に携わる医療従事者を定員とした。事前登録者は、10月47名、2月64名であった。講義としては、がん患者に対する心理社会的支援の必要性や、がん患者に対する心理社会的支援の方法、ピア・サポーターとの協働について説明した。ここでは、サポートグループの必要性やピア・サポーターとの協働意識を強調し、さらにサポートグループは画一的なものでなく、多様なニーズに合わせた対応の重要性を指摘した。それから、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割を確認し、情緒的サポートの基本姿勢を指摘した。その後、作成したファシリテーショ

ンの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。本講義内容は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏襲した。

2020年度から今年度までに合計9回開催し、583名が修了した。開催を重ねるにつれ、レベルIの参加者（p.18参照）が増えており、研修の裾野が広がってきたと考えられる。

今後もサポートグループ等の活動を体験したことのない参加者の割合が多くなることから、ピア・サポートの実際の場面を示すことを意図した動画を作成し、プログラムに組み込むこととした。本動画は、「がんサポートプログラム企画の手引き」の内容を踏まえ、がんサポートグループにおけるファシリテーションの実践として、相互作用を促すコミュニケーションスキルやファシリテーターの役割や情緒的サポートの基本的な姿勢を示すこととした。作成したファシリテーションの6場面の具体例を動画で供覧し、参加者同士で実際場面を想定したロールプレイやサポートグループを企画するディスカッションを行った。

全国の拠点病院等において、質の高い心理社会的支援が提供されるためには、継続して本研修会を開催し、受講していない病院などの医療従事者の受講を促す必要がある。

さらに、継続受講を希望する参加者も多かったことから、実際にサポートグループを運営して生じる課題などについて話し合ったり情報交換したりできる場の設定も今後の課題である。

(2) 「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」修了生を対象としたフォローアップ研修会の実施

2020年度から2022年度に開催した「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」の修了者を対象に、フォローアップ研修会を実施した。2024年11月16日にオンライン開催し、36名が修了した。

プログラムは4時間で、ピア・サポート好事例紹介、事例検討、情報交換の3つのパートから構成した。事例検討では、サポートグループにおいて生じうる難しい場

面において、ファシリテーターとしてどのような対応するのかについてグループで話し合った。

4. 情報提供等を行うホームページの運用

情報提供や研修の周知を行うホームページを運用し、研修テキスト等の公開や、各種研修会、委員会やワーキンググループ活動の紹介を行った。

- ・ 「ピア・サポーター養成テキスト2020年度版」「がんサポートプログラム企画の手引き2020年度版」「ピア・サポーター養成研修会開催マニュアル」等の研修資料の公開
- ・ 平成30年度、令和元～5年度の事業報告書(PDF)の公開
- ・ 2024年10月16日、2025年2月11日開催「がんサポートグループ企画・運営者のための研修会」、2024年11月16日実施「がんサポートグループ企画・運営者のためのフォローアップ研修会」の研修案内、申込ページの設置
- ・ 各会議、意見交換会、研修会等の活動紹介
- ・ 各種問い合わせへの対応

C. 考察

第4期がん対策推進基本計画に基づき、各都道府県に対するピア・サポート養成と担当者との意見交換、拠点病院等に対してはサポートグループを開催するための研修会を開催した。また実施要綱に沿って、ピア・サポートに関する各都道府県の実態や都道府県がん対策推進計画の検討状況の把握を行った。上記活動を通して、わが国のがん医療において、ピア・サポートを推進する上で以下の取り組みが求められる。

1. 都道府県がん診療連携協議会の積極的な関与の必要性

ピア・サポートは患者サロン等拠点病院内で活動することが想定されており、その養成と活用にあたり自治体と医療従事者が協働して進める必要がある。しかし、

- ① 都道府県のがん対策推進計画の中でピア・サポート

に関する目標が設定されている都道府県は第4期がん対策推進基本計画策定後に増加したものの全ての都道府県が記載するには至らなかったこと

- ② 都道府県の中で行政と医療従事者がピア・サポートに関して検討する場を持っている都道府県も増加しつつあるもまだ6割弱であった。

第4期がん対策推進基本計画においては、都道府県が設置するがん対策推進協議会の体制を強化し、拠点病院等の役割分担や連携体制の構築等を新たな要件として盛り込んでいる。ピア・サポーターを養成し活用するためには、自治体と拠点病院等が協働して進める必要があることから、がん診療連携が積極的に関与し、拠点病院等への役割の提示やピア・サポートに関する検討会の設置など推進することが重要である。

2. ピア・サポーターを護ることの重要性

拠点病院等の整備指針には、「体験等を語り合うための患者サロン等の場」の設置が義務づけられている。「体験等を語り合うための患者サロン等の場」については、その検討の経緯まで踏まえないとセルフヘルプグループやサポートグループを想定していると解釈することが難しいため、本来の主旨が十分に周知されていない現状がある。がん診療連携拠点病院における心理社会的支援の整備の方向性を周知が求められる。

加えて、今後ピア・サポーターの活動の場が広がるにつれて、ピア・サポーターが相手を傷つけず、また自らの傷つきを防ぐためにも、精神心理的支援に関する基本的な知識を予め身につけておくことが重要になる。特に医療機関と連携してピア・サポート活動をする場合には、医療に関する問題には踏み込まないことや個人情報扱い等についても確認する必要があり、事前の教育・研修は必須である。あわせて、医療従事者もその課題を認識し、活動計画の時点から想定した準備が求められる。その点で、石川県のように、拠点病院等が養成研修に推薦する条件として、自施設で体験者の心身をフォローすることを明記した取り組みは先駆的であり、示唆に富む。

II. 事業総括

表1 意見交換会の実施（研修実施に向けた打合せを含む）

	都道府県	開催日	開催場所	参加者
1	群馬県	令和6年 6月19日	WEB	県出席者：1名 委託事業出席者：1名
2	東京都	7月3日	WEB	都出席者：2名 委託事業出席者：3名
3	千葉県	7月4日	WEB	県出席者：2名 委託事業出席者：2名
4	香川県	7月17日	WEB	県出席者：2名 委託事業出席者：1名
5	大阪府	7月31日	WEB	府出席者：2名 委託先団体：3名 委託事業出席者：2名
6	福井県	7月14日	WEB	県出席者：3名 委託事業出席者：2名
7	奈良県	8月7日	WEB	県出席者：2名 委託事業出席者：2名
8	岡山県	8月9日	WEB	県出席者：2名 委託事業出席者：2名
9	静岡県	8月19日	WEB	県出席者：2名 委託事業出席者：2名

表2 行政・医療従事者向け勉強会の実施

	都道府県	日時、開催場所	内容	参加者
1	大阪府	令和6年 9月20日 WEB	大阪府がんピア・サポート勉強会 1. 講演 （1）ピア・サポートについて （2）がん診療連携拠点病院でのピア・サポーター活動事例報告等 2. 大阪府事業説明（ピア・サポーター養成講座の案内、派遣事業のフロー等の説明） 3. 質疑応答	18名

改訂委員会 会議記録

第1回委員会

日時：2024年8月20日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 厚生労働省あいさつ
- (2) 事業方針の確認
- (3) 報告事項
 - (ア) ピア養成研修WG報告
 - (イ) 短期サポートグループWG報告
 - (ウ) 都道府県支援希望調査アンケート結果
 - (エ) がん診療連携拠点病院等アンケート結果
- (4) 検討事項
 - (ア) 都道府県への支援について

第2回委員会

日時：2024年12月24日（火） 形式：オンライン開催

議事：

- (1) 厚生労働省あいさつ
- (2) 事業方針の確認
- (3) 報告事項
 - (ア) ピア養成研修WG報告
 - (イ) 短期サポートグループWG報告
- (4) 検討事項
 - (ア) 都道府県への支援について
 - (イ) 令和6年度事業報告書について

第3回委員会

日時：2025年2月14日（金） 形式：オンライン開催

開催議事：

- (1) 厚生労働省あいさつ
- (2) 報告事項
 - (ア) ピア養成研修WG報告
 - (イ) 短期サポートグループWG報告
- (3) 検討事項
 - (ア) 令和6年度事業報告書について